

# 障がい者チャレンジトレーニング（職場短期実習）事業 好事例

（支援機関）障がい者就業・生活支援センター

1. 本人プロフィール	
障がい種類・程度	知的障がい（B2）

2. 職場情報	
業種	旅館・ホテル業

3. チャレンジトレーニングの実施			
日数	10日間	勤務時間	5時間／日
実習内容	館内清掃、食器洗浄		
支援機関による 職場への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初の実習内容は、館内清掃と食器洗浄であったが、館内清掃は手順が多いため難しい。また、ミスも許されないため、本人には向いていないと判断し、途中から食器洗浄のみを進めることを提案した。</li> <li>・チャレンジトレーニング最終日に、ハローワーク担当官と共に職場訪問し、実習中の本人の様子を聞き取った。</li> </ul>		
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人のキーパーソンとなる女将が実習現場に常駐できないため、いつでも連絡を取れるよう、女将への直通の連絡先を支援機関と本人が共有して、問題が生じた際に早期対応ができる体制を整備した。</li> </ul>		

4. 就職後の様子	
仕事内容	食器洗浄
職場における 本人への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジトレーニング中に提案した実習内容が本人に適していたため、雇用後も同業務（食器洗浄のみ）を担当している。</li> <li>・他人の目を気にすることなく休憩が取れるようにロッカー室を開放している。</li> </ul>
支援機関による 就職後の定着支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職後も2週間に1回訪問し、本人の様子を伺っている。</li> <li>・職場での本人への声のかけ方や、ミスをした際の注意の仕方について、曖昧な言葉では本人を困惑させるため、写真などを用いて具体的にわかり易く伝えるなど、本人に合った対応をするよう、企業にアドバイスをしている。</li> </ul>
チャレンジ トレーニング後の 職場の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでは、障がい者を雇用しても離職が続いていたため、障がい者雇用への不安があったが、雇用前にチャレンジトレーニングを実施して本人の働く様子を見ておくことで、安心して雇用することができた。</li> </ul>